

# ライフサポートひなた(訪問)

症 例 概 要 利用者：80代・女性・要介護4

病名：ギランバレー症候群

既往歴：両膝人工関節置換術(2011)、脳梗塞(2013、2022)、子宮がん(1996)

経過：令和4年10月に構音障害を呈し救急搬送。その際に微小脳梗塞認める。その後神経伝導検査により多発性脳神経麻痺と診断。11月に竹川病院へ転院。約4か月半リハビリを行い4月に自宅退院。退院直後は歩行時のふらつきや体力の低下により、病前のように買い物に行くことや経営している店(和菓子屋)の賄を作ることが困難であった。その後、訪問リハビリの実施やご家族の支援により、病前と同様に自分で買い物に行き従業員10人ほどの賄を作ることができるようになり、ご本人の生きがいを継続出来ている。

## 内 容

利用者さんの病前生活は、自分で食材を買ってきて経営されている和菓子屋の従業員の賄を作る事が日課でした。和菓子屋は亡くなった旦那様と一代で築き上げたお店で、賄を作る事は利用者さんができる店の支え方であり、生きがいでした。退院直後のHOPEも賄作りを再開したいとの事でしたが、実際の動作は立位・歩行の不安定さや体力の低下、疲労時には腰部・下肢の張りが出現し病前と同様に賄を作ることは困難でした。しかし、HOPEに対する意欲は低下することなく持っていました。

利用者さんはHOPEを目指し訪問リハビリに積極的に取り組みました。また、ご家族の協力もあり見守りで買い物に行く、まずは自分の分だけでも料理を作ってみるなど、徐々に元の生活に近づきつつありました。お店をご家族で経営していることもあり、早朝お孫様が出勤された際、利用者さんの起き上がりや移動を一緒に手伝ってくれたりのご家族とは非常に良い関係性を築けていました。退院時、ご家族から「家にいてくれるだけでも嬉しい」と言われ涙を流す様子もありました。

ご家族・リハビリ等、利用者さんの明るい人柄から多くの支援があり現在は賄作りを再開し継続する事が出来ています。毎日自分で献立を考えており、10人分の賄を作っています。9時からのリハビリで訪問した際には毎回美味しそうな賄が出来上がっています。ご家族も利用者さんの賄を楽しみにされています。また、最近では2ヶ月に1回程、娘様と温泉に行ったり、お盆にはお孫様達とショッピングモールに買い物に行ったりと楽しく過ごすことができています。

今後も生きがいである賄作りを継続する事で、お店を支えることができると考えています。